

横須賀港の概要

横須賀港の概要

横須賀港の定期航路

横須賀港への客船寄港

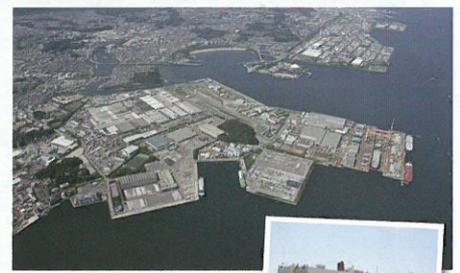
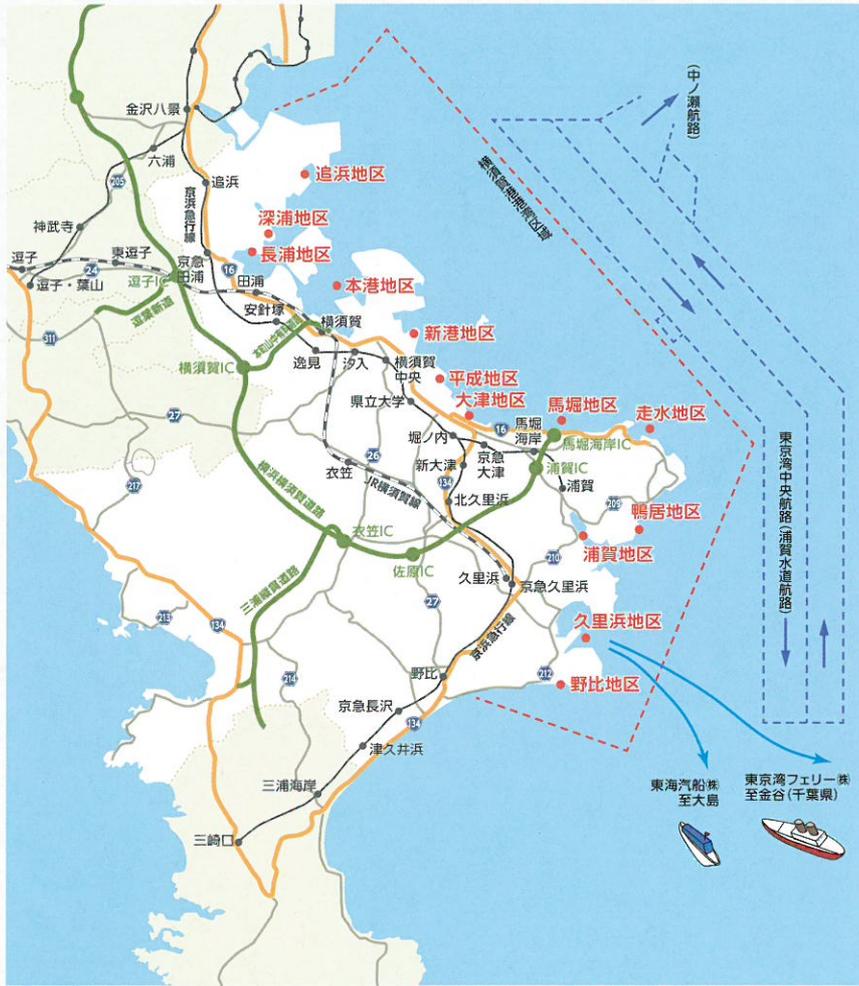
横須賀港のイベント

横須賀港周辺の名所

みなとオアシス
"ペリー久里浜"

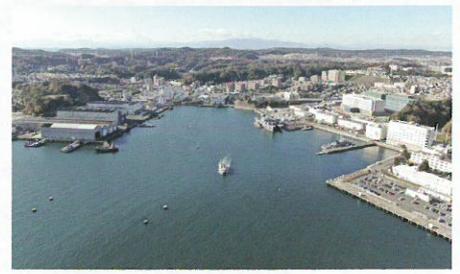
横須賀港と首都圏

横須賀港に関する資料集



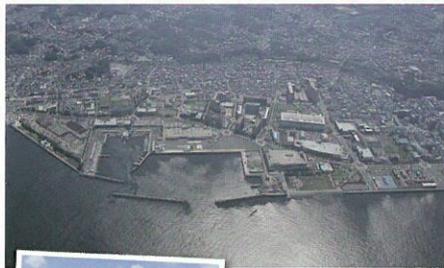
追浜地区

自動車産業、各種研究所、造船所などの企業が立地し、主に完成自動車の輸出入が行われています。
(船の写真協力：日産自動車株)



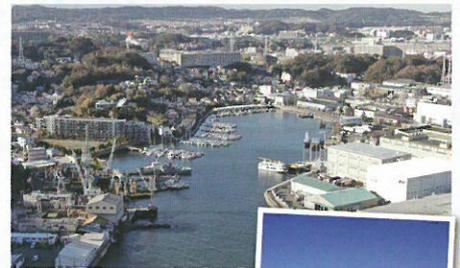
長浦地区

戦後最初に整備が進められた地区で、捕鯨船の基地として栄えました。現在は、各種工場や倉庫が立地しているほか、海上自衛隊や米軍が利用しています。



平成地区

「海辺のリゾート複合都市」を目標に、職・住・遊・学の機能を融合したまちづくりを進めています。
また、大規模地震に備えるため耐震強化岸壁を整備した地区です。
「うみかぜ公園」は、バーベキューが楽しめる芝生広場や、スケートボードやマウンテンバイクなどが楽しめるスポーツ広場と親水護岸で構成され、いろいろなイベント会場として利用されています。
「海辺つり公園」では、四季を通じて海釣りを楽しむことができます。



深浦地区

各種工場、造船所が立地しています。
また、2006(平成18)年度に深浦ボートパークを整備しました。



大津地区

漁港の背後に住居、商業施設が立地しています。
このような背後地の安全・安心を守るため、高潮対策護岸の整備を行っています。



久里浜地区

東京湾の入口に位置し、船で混雑する浦賀水道航路に入らず入港でき、耐震強化岸壁を整備した地区です。横浜横須賀道路(佐原IC)から近く、首都圏各地からの物流アクセスが便利な地区です。房総半島を結ぶフェリーのほか、大島がある東京諸島(伊豆諸島)への定期航路があります。
1853(嘉永6)年にペリー提督が上陸した地であり、伊藤博文による碑文が刻まれた記念碑が建てられています。



新港地区

横須賀港随一の規模を持ち、SOLAS条約[※]に基づく港湾施設保安計画に対応した国際ふ頭です。横須賀の中心市街地に隣接し、猿島や三笠公園などの観光地に近い立地となっています。水深の深い係留施設があるため、完成自動車の輸出や冷凍マグロの輸入などが行われています。2021(令和3)年7月、新門司(北九州市)との間に新規フェリー航路開設の予定です。関東と九州を結ぶ新たな交通手段として期待されています。近くには、日露戦争で活躍した「戦艦三笠」が保存されている「三笠公園」や、東京湾内唯一の自然島である「猿島」があります。

※海上における人命の安全のための国際条約



鴨居地区

自然が豊かな観音崎公園があります。公園内にはフランソワ・レオンス・ヴェルニーが設計した日本初の洋式灯台である「観音崎灯台」があり、内部の見学が可能です。また、観音崎灯台や観音崎レーダー局(旧東京湾海上交通センター)も立地し、東京湾の安全を支えています。

本港地区

1865(慶応元年)、この地に横須賀製鉄所の建設が始まるとともに、横須賀港の港湾としての歴史が始まりました。現在は主に海上自衛隊や米軍が利用しています。フランス式庭園様式を取り入れた「ヴェルニー公園」があり、旧戦艦「陸奥」の主砲が設置されています。潮風とともに散歩を楽しめる「うみかぜの路」の起点です。海上自衛隊や米軍の艦艇を一望できます。



走水地区

自然の海浜があり、春はお花見が楽しめます。海浜の背後には、横須賀製鉄所ゆかりの走水水源地があり、「ヴェルニーの水」を汲むことができます。「横須賀美術館」の周辺には砲台跡があり、自然と歴史を感じながらゆっくりとした時間を過ごすことができます。

浦賀地区

江戸時代から中継貿易港として栄えた歴史ある港です。2015(平成27)年度に西浦賀みなと緑地の一部の整備が完了し、プロムナード機能を確保しました。この地区で運航する渡船「愛宕丸(あたごまる)」は、浦賀の東西を結ぶ貴重な移動手段となっています。1725(享保10)年から始まる長い歴史があり、「ポンポン船」の愛称で親しまれ、浦賀のシンボルとなっています。



馬堀地区

1995(平成7)年、1996(平成8)年の台風により馬堀海岸一帯が浸水の被害を受けたため、親水性を備えた高潮対策護岸の整備を行いました。静穏時には親水施設として護岸上部を歩けるプロムナードとなっています。



野比地区

約5km(港湾区域内は約2km)の砂浜が広がっています。海岸侵食による背後地への被害を防ぐために、離岸堤などの整備を進めています。

数字で見る横須賀港(他港との比較)

横須賀市議会議員 小林伸行

●世界の港ランキング 2020(コンテナ取扱個数)

順位	港湾名	国/地域	取扱貨物量(万 TEU)	備考
1	上海	中国	4,350	
2	シンガポール	シンガポール	3,687	
3	寧波-舟山	中国	2,873	
4	深圳	中国	2,655	
5	広州	中国	2,319	
39	東京		475	順位は 2019 年
61	横浜		266	順位は 2019 年
67	神戸		265	順位は 2019 年
—	横須賀		0	

出典：国土交通省「世界の港湾別コンテナ取扱個数ランキング」

●日本の取扱貨物量ランキング 2019

順位	港湾名	都道府県	取扱貨物量(万 t)	備考
1	名古屋	愛知県	19,444	
2	千葉	千葉県	14,001	
3	横浜	神奈川県	11,062	
4	苫小牧	北海道	10,729	
5	北九州	福岡県	9,860	
6	神戸	兵庫県	9,401	
7	東京	東京都	8,781	
60	横須賀	神奈川県	904	

出典：国土交通省「港湾取扱貨物量ランキング(2019年 上位 200 港)」

●日本の入港船舶数ランキング 2019

- ・横須賀 入港船舶隻数 61 位(外航では 90 位)／入港船舶総トン数 35 位(外航では 79 位)

出典：国土交通省「入港船舶数ランキング (2019年上位 100 港)」

●日本の貿易額ランキング 2020

- ・横須賀 52 位(総貿易額 1,775 億円、輸出額 1,032 億円、輸入額 744 億円)

出典：国土交通省「港湾別貿易額ランキング (2020年)」

●日本の港湾空間ランキング 2021

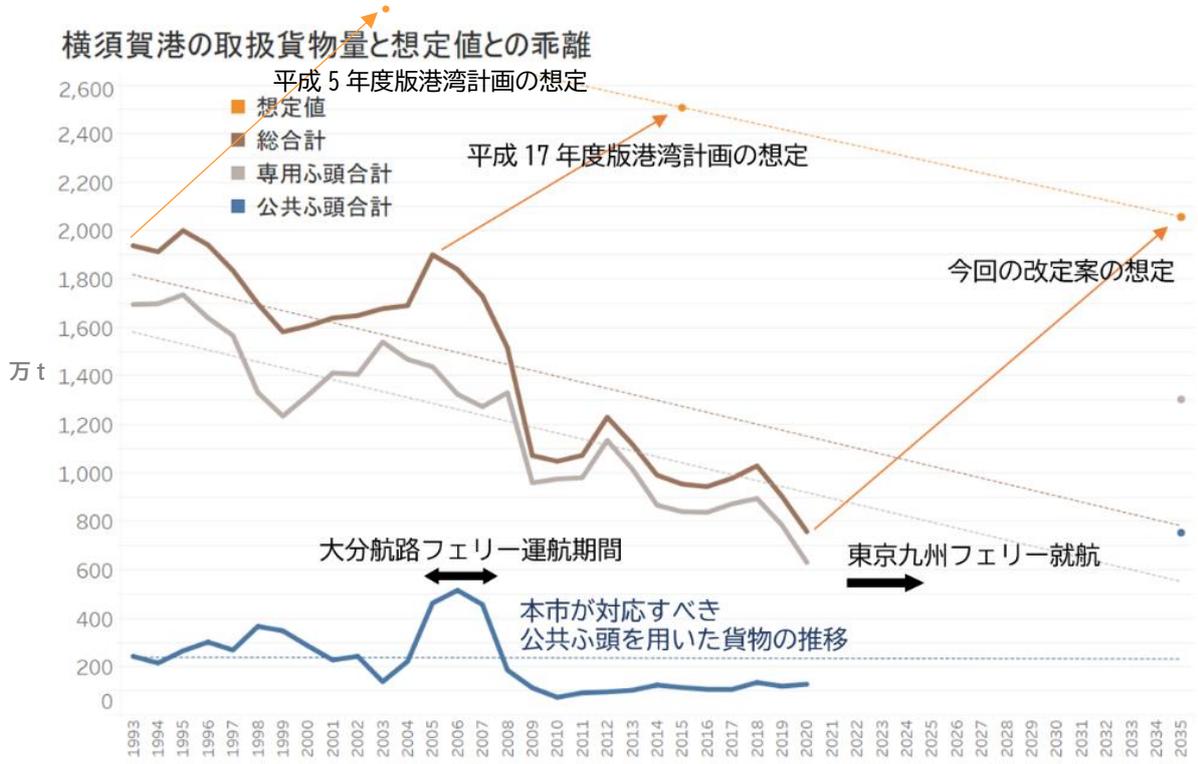
- ・横須賀 水域 28 位(5,525ha)／陸域 50 位(283ha)

出典：国土交通省「港湾空間の規模ランキング(港湾区域・臨港地区)」

以上

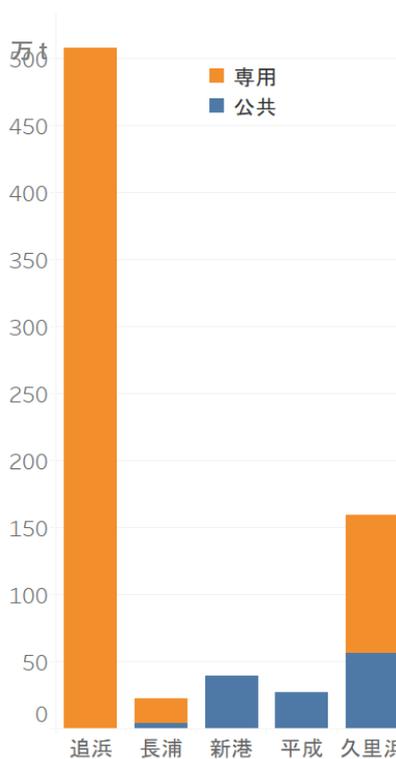
横須賀港の関係データ

横須賀市議会議員 小林伸行

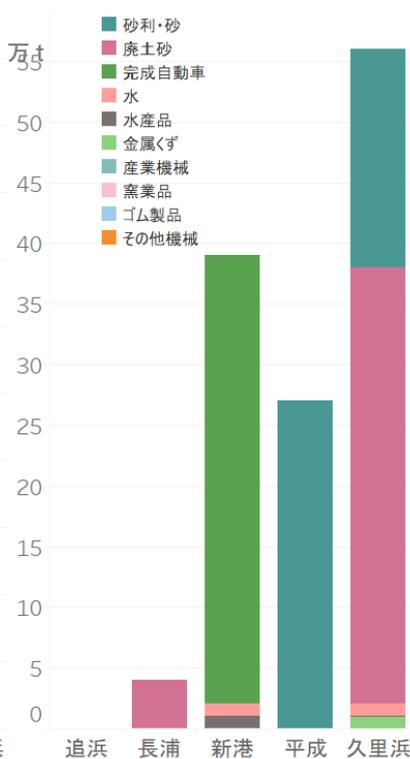


出典：各年度の横須賀市「港湾統計」および平成17年度版「港湾計画 資料編」

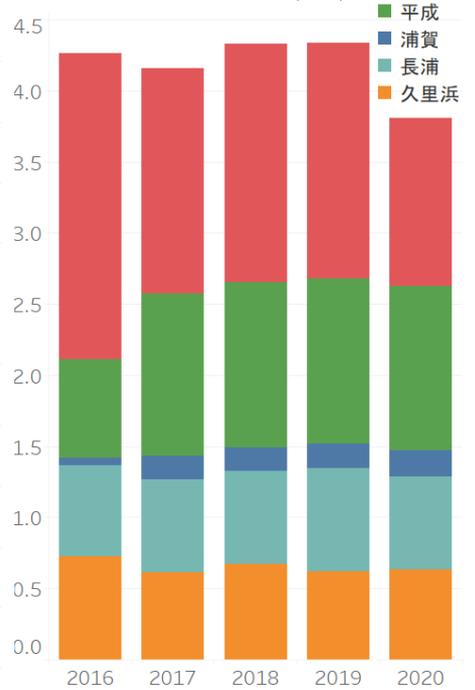
地区ごとの公共専用別の貨物量2020



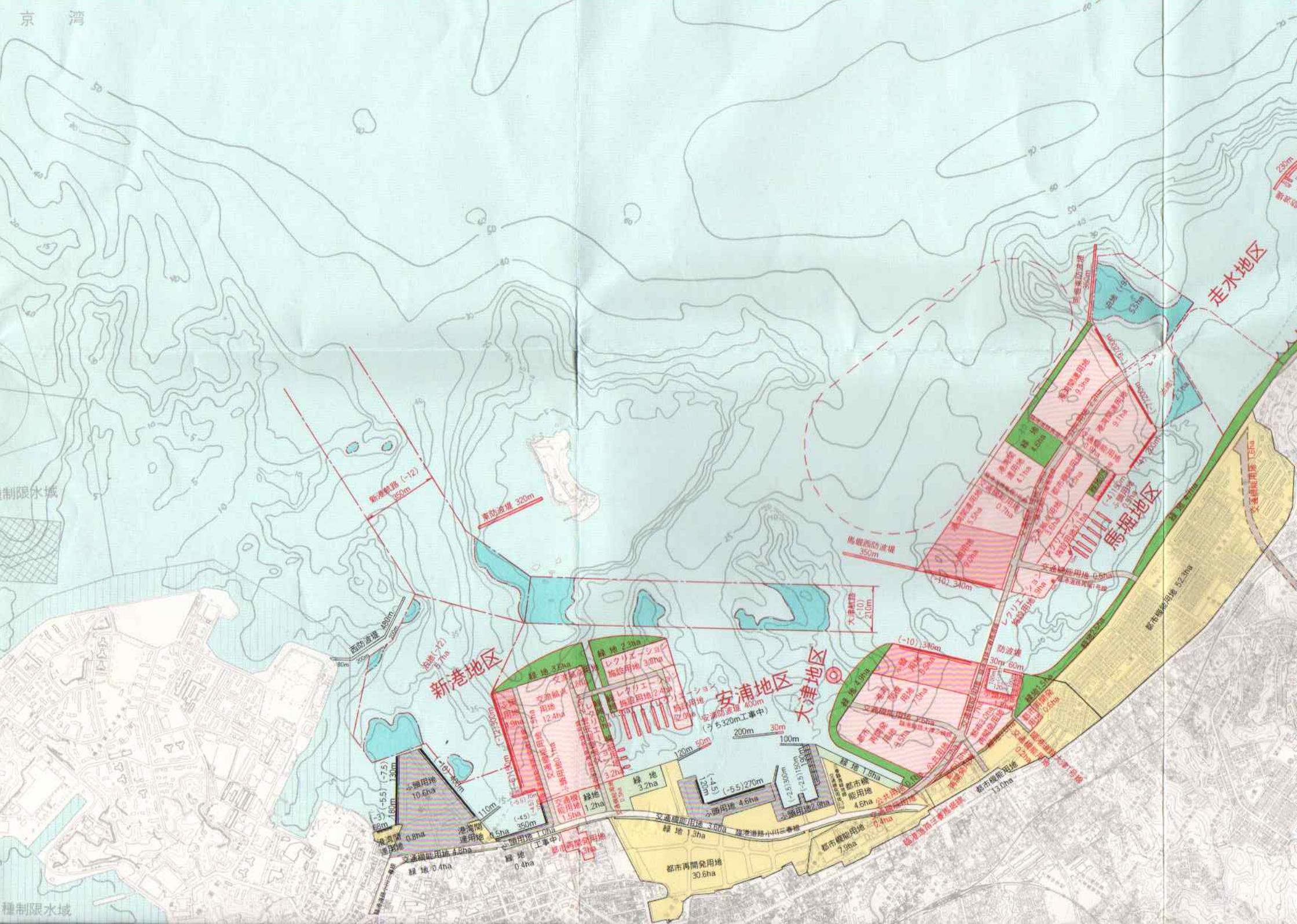
地区ごとの品種別公共貨物量2020



横須賀港の地区別歳入額(億円)



出典：横須賀市「港湾統計」(令和2年度)および「一般会計決算説明資料」(令和3年9月定例議会)



制限水域

制限水域

新津線 (-12) 352m

東防波堤 320m

馬場西防波堤 350m

走水地区

新港地区

安浦地区

大津地区

馬場地区

小磯 (-5.5) (-7.5) 10.0ha

港開運用地 0.5ha

交通用地 1.2ha

緑地 3.2ha

交通用地 4.6ha

緑地 1.3ha

都市開発用地 30.6ha

都市開発用地 7.9ha

都市開発用地 13.3ha

都市開発用地 0.4ha

都市開発用地 52.2ha

交通用地 1.5ha

緑地 1.2ha

交通用地 1.2ha

緑地 3.2ha

交通用地 4.6ha

緑地 1.3ha

都市開発用地 30.6ha

都市開発用地 7.9ha

都市開発用地 13.3ha

都市開発用地 0.4ha

都市開発用地 52.2ha

交通用地 1.5ha

緑地 1.2ha

交通用地 1.2ha

緑地 3.2ha

交通用地 4.6ha

緑地 1.3ha

都市開発用地 30.6ha

都市開発用地 7.9ha

都市開発用地 13.3ha

都市開発用地 0.4ha

都市開発用地 52.2ha

交通用地 1.5ha

緑地 1.2ha

交通用地 1.2ha

緑地 3.2ha

交通用地 4.6ha

緑地 1.3ha

都市開発用地 30.6ha

都市開発用地 7.9ha

都市開発用地 13.3ha

都市開発用地 0.4ha

都市開発用地 52.2ha

交通用地 1.5ha

緑地 1.2ha

交通用地 1.2ha

緑地 3.2ha

交通用地 4.6ha

緑地 1.3ha

都市開発用地 30.6ha

都市開発用地 7.9ha

都市開発用地 13.3ha

都市開発用地 0.4ha

都市開発用地 52.2ha

交通用地 1.5ha

緑地 1.2ha

交通用地 1.2ha

緑地 3.2ha

交通用地 4.6ha

緑地 1.3ha

都市開発用地 30.6ha

都市開発用地 7.9ha

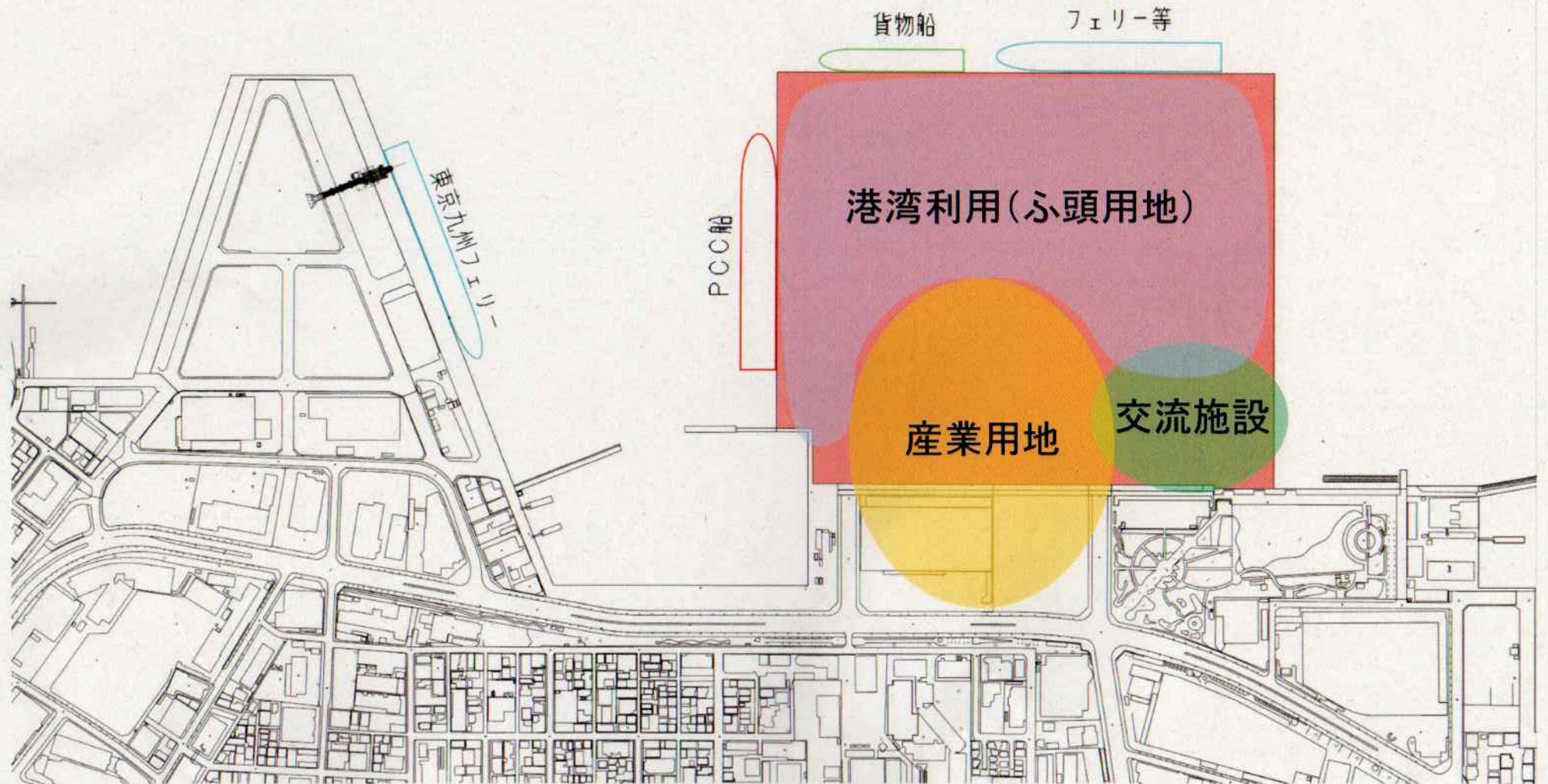
都市開発用地 13.3ha

都市開発用地 0.4ha

都市開発用地 52.2ha

3 新規ふ頭計画案

新港地区 新規ふ頭計画案

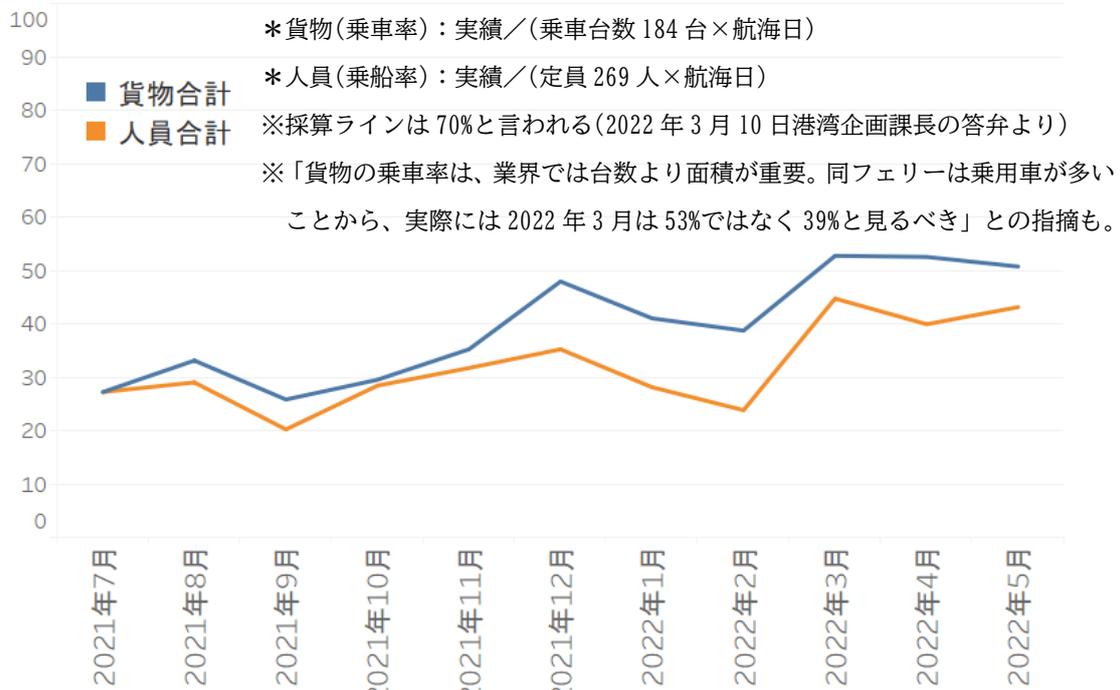


新港第二ふ頭の関係データ

横須賀市議会議員 小林伸行

●東京九州フェリーは、今後も残るのか？

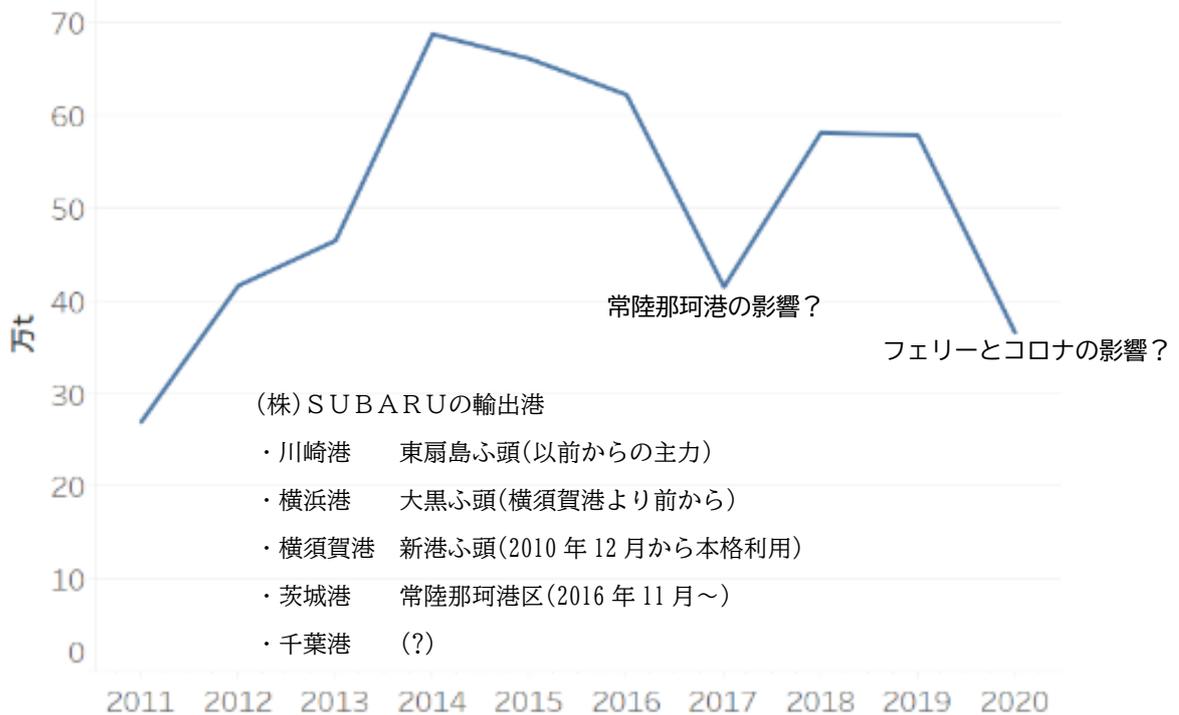
東京九州フェリーの稼働率(%)



出典：横須賀市「令和4年度会派勉強会資料」建設部港湾担当分より

●スバルの自動車輸出は、今後も続けてもらえるのか？

新港の自動車(スバル)輸出量



(株)SUBARUの輸出港

- ・川崎港 東扇島ふ頭(以前からの主力)
- ・横浜港 大黒ふ頭(横須賀港より前から)
- ・横須賀港 新港ふ頭(2010年12月から本格利用)
- ・茨城港 常陸那珂港区(2016年11月～)
- ・千葉港 (?)

出典：各年度の横須賀市「港湾統計」

第二心頭をめぐる経緯

横須賀市議会議員 小林伸行

- 1967年 初版「港湾計画」策定
- 1993年 横山市長が2200億円の巨大埋立構想「ポートフロンティア計画」に着手
- 1993年 呉東弁護士や一柳市議ら市民が非公開プロセスに抗議し裁判所に調停申立
- 1993年 「ポートフロンティア計画」を盛り込んだ平成5年度版「港湾計画」発表
- 1993年 沢田市長が当選
- バブル崩壊による地価下落もあり、「ポートフロンティア計画」は停滞
- 1997年 沢田市長が「今後、新たな東京湾埋立はしない」と議会答弁し計画を凍結
- 2005年 平成17年度版「港湾計画」を策定。開発型から環境重視の方向性に転換
- 2015年 平成27年度版「港湾計画」を策定。前回方針を基本的には踏襲
- 2017年 上地市長が当選
- 2018年8月頃 久里浜地区へのフェリー誘致を模索
- 2018年9月頃 「久里浜では無理なので新港にフェリー誘致」と市議会議員に情報提供
- 2018年12月 SHKライングループ・横須賀市・北九州市の連携で、横須賀～新門司間のフェリー就航を検討すると共同発表
- 2019年4月 東京九州フェリー株式会社が設立
- 2019年9月 新日本海フェリー(株)が2隻のフェリー(はまゆう・それいゆ)建造を発注
- 2019年9月 市が就航を見込んだ「新港心頭利用計画案」を横須賀港運協会に提示
- 2019年9月 横須賀港運協会がフェリー就航に反対を表明
- 2020年2月 市が説明会を開催。同日に市と横須賀港運協会による協議会が発足
- 2020年8月 横須賀港運協会がフェリー就航見直しと工事差止めの要望書を市に提出
- 2020年9月 フェリー旅客ターミナルのインフラ整備費の補正予算を市議会が可決
- 2020年9月 近隣住民が説明会開催を市に要望
- 2020年10月 スバル車輸出を請負う会社が従来通りの新港利用を不許可とした市を提訴
- 2021年5月 全国港湾労働組合連合会がフェリー就航で雇用が失われるとし市に申入れ
- 2021年6月 上地市長が再選
- 2021年7月 東京九州フェリーが就航
- 2021年10月 国の仲介もあり、横須賀港運協会と市が基本合意を交わす。その中で、「新たな心頭(第2突堤)整備に向けた準備」を市が行うことと明記
- 2022年3月 「横須賀港長期構想」を発表。第二心頭整備が記載される
- 2022年3月 市議会ではこすか未来会議の代表質問で、第二心頭の採算性について質問
- 2022年6月 市議会では小林が質問し、費用便益分析の実施と情報公開について言質とる

*出典：

神奈川新聞

一柳洋(2008)『よみがえれ東京湾』pp.58-68、株式会社ウェイツ

横須賀港運協会ホームページ